



支援員養成講座5

発達障害と合理的配慮

学年に応じた配慮④

そのほかに学校で出会うことの多い障害

- 知的障害
- てんかん
- 身体障害
- 反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)

※他の障害と重複していることが多く、子どもによって状態は異なる。



1

2

知的障害の子どものへの支援

- 障害のあらわれ方は個人差が大きい
- 軽度のタイプでも抽象的な表現を理解することが苦手であったり、未経験の出来事や状況の急な変化への対応が困難な場合が多い
- 知的な理解力に合わせた支援が重要
- 年齢に応じた対応を心がけましょう!



3

知的障害の子どものへの支援

- 失敗経験の多さなどから自信がないことがある
- 高学年では、プライドから理解しているふりをすることがある
- わからないことを隠したり、ごまかすことがある

本人の気持ちを尊重した支援が重要!



4

ダウン症(ダウン症候群)の子どもへの支援①

- 知的障害の程度に合わせた声掛け、対応
- 身体的な疾患、体力に応じた支援
- 発音の不明瞭さは気にせずコミュニケーションを



5

ダウン症(ダウン症候群)の子どもへの支援②

- ASDの特徴を併せ持つことが多いと言われている
ASDの支援を参考にしましょう!



6

てんかん発作の介助

- てんかん発作のタイプや程度に合わせた支援
- 個別指導計画書を確認したり、先生に伺うなど事前に対応を確認しましょう
- 対応に悩むときには先生方に助けを求めることが重要です!



7

身体的な介助が必要なケースへの対応①

- 給食・着替え・朝や帰りの支度・教室移動・休み時間の見守り・トイレの手伝いなど
- 障害の程度や、知的障害があるかどうかによっても異なる
- 学校にどのような介助が必要か確認しておきましょう



8

身体的な介助が必要なケースへの対応②

- 身体的な障害があっても、自分でできることを増やしていくことが大切
- どこを手伝えれば自分で取り組みやすくなるのかを考えて支援に当たしましょう
- 子ども自身、介助をされたらお礼が言えるように支援することは大切



9

反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)の対応①

- 日頃から本人と信頼関係を築くようにしましょう
- 暴言、他害をやめさせようとし
本人の行動の背景にある気持ちを理解しましょう
正論を伝えるのは効果がない。



10

反抗挑戦性障害(反抗挑戦症)の対応②

- 高学年では、力が強くなり、ことばも巧みになる場合がある。
- 支援員自身が怪我をしないように、距離を取って支援しましょう



11

そのほかの障害を持つ子どもへの支援

- 診断名にはなくても、知的障害やそのほかの障害にASD、ADHDの特徴を併せ持つことがある
ASD、ADHDの支援を参考にしましょう!



12

学年に応じた配慮

特に高学年では、失敗体験の積み重ねにより、
自己肯定感が下がる、学習性無力感などの
二次障害が生じるため、配慮が必要です

